NTS物語

吉田　隆

一、本をつくりはじめたころ

⑤出会い(下)

清山哲郎先生との出会いは昭和五十八(一九八三)年のことだった。新聞に掲載された化学センサの記事を読み本にしたいと思った。早速、先生に手紙を書いた。一生懸命書いた手紙はレポート用紙十枚程になった。しばらく応答がなくあきらめかけた頃、のっけから「きたない字でまいりました」と辛辣な言葉で始まる返事を頂いた。とても厳しくかつ弟子の尊敬を一身に集める大先生であることは後に分かったことである。そのご返事の結論は監修を引き受けるというものであった。何度も厳しいご指導を受けながらも「化学センサ実用便覧」(昭和六十年、フジテク刊)が完成したのは、既にNTSとして独立後のことであった。そして、当時会長を務めておられた日本表面科学会の十周年記念誌を作らないかという駆出しの出版社にとってはまたとないお話を頂いた。その「表面科学の基礎と応用」は制作に五年を要し、平成三(一九九一)年完成したのだが千二百頁の大著となり自社だけでは制作費用を賄えず、フジテクとの共同出版とした。初版三千部は両社で完販し絶版となっている。その間、事務局のお世話をさせていただく等同学会との関係が強くなったこともあり、学会誌「表面科学」の編集をお世話を頂いたのは記念誌完成の前年のことであった。学会からいただいた予算は年間九十万円に満たないものであった。多少の経験を持つアルバイトと私のフォローがあれば十分であるという私の予想を大きく超え、急遽編集専任の社員を一名採用した。結局、この仕事は失敗に終わった。先生の期待に応えようと少し背伸びをしすぎたのかも知れない。関係者には苦労をかけたが、専任者の入社がその後の大型書籍の路線の飛躍に繋がったことを思えば得たものも大きかった。この社員が現編集企画部の○○課長である。

先生との交流はその後も続き、平成五(一九九三)年には、日本工学アカデミー地球環境専門部会の事務局のお手伝いを一年間程担当させて頂いた。清山先生にはその他にも多くの先生方をご紹介いただき弊社の発展に手を尽くしていただいたのである。当社技術顧問の松永孜氏を紹介して頂いたのは平成四(一九九二)年のことであった。松永顧問のご指導で「分子機能材料と素子開発」「ゲルハンドブック」「有機EL素子とその工業化最前線」等が実現し、今後も「表面処理」「騒音・振動」他多くの書籍を発刊予定である。又、東京大学の梅澤喜夫教授をご紹介いただき「最新の分離・精製・検出法」が実現したのが平成九(一九九七)年のことであった。その清山先生も一昨年の五月に亡くなられた。その後も梅澤先生や「ゲルハンドブック」の監修者長田義仁先生等が中心となって大型企画が進行中であることを考えれば、先生のご遺徳は松永顧問をはじめ諸先生方に受け継がれる形となり、数々の書籍としてNTSを支える礎となっている。現在のNTSが、湯原浩三先生と清山哲郎先生両先生の支えあってのものであることを私たちは忘れてはならない。

掲示板

今月の人事

一月二十一日付入社　営業部
一月二十八日付退社　市川
一月二十九日付退社　営業部
一月二十九日付退社　市川
二月一日付異動　営業部
二月　十五日付退社　営業部
二月　十六日付入社　営業部

社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

二月二十八日(日)
三月二十八日(日)

編集後記

花粉症に苦しむ人達の悲鳴が聞こえるようになりました。幸い私は花粉症にはまだなっておらず、日々暖かくなる今の季節を楽しんでおります。インフルエンザもまだしぶとく居座っているようです。まだまだ寒い時節柄、どうぞお身体にお気をつけくださいませ。

ちなみに「風邪をひかないためのガイドブック(中央労働災害防止協会)」に、職場で風邪をひかないためのアドバイスが書かれておりましたので参考までに引用させて頂きます。

一、昼休みやアフターファイブに運動をする。二、朝食を摂る。三、保温　四、タバコを控える　五、深酒を止める　六、手洗い、うがいをする。七、ストレスを解消する。あたりまえのことですが、職場でこれらを気を付けるだけで風邪を予防できるのであればやってみはいかがでしょうか。

さて、本号から、シリーズ企画「21世紀のNTS像」が始まりました。NTSが21世紀にどのような会社になっているか皆さんも興味があるのではないでしょうか。シリーズが終わる頃に、ぼんやりとでもNTS像を見ることができればイイナと思っております。どうぞお付き合いください。

NTSニュース　一九九九年二月号
一九九九年二月二十五日発行